

第 3 次豊田市地域福祉計画・地域福祉活動計画 パブリックコメントの実施結果について

【参考】意見分類と件数

事務局にて意見内容から分類

意見提出人数 16 人（※ 1 人の意見に複数の項目要素が含まれる場合、分けて整理）

項目	番号	意見分類	件数
計画全般への意見	①	表紙について	1 件
主に、 第 3 章に関する意見	②	アンケートについて	2 件
	③	地域福祉の方向性について	1 件
主に、 第 4 章に関する意見	④	地域差について	1 件
	⑤	基本目標について	1 件
	⑥	計画の評価について	1 件
主に、 第 5 章に関する意見	⑦	市民の役割について	1 件
主に、 第 6 章に関する意見	⑧	担い手づくりについて	1 件
	⑨	評価指標について	3 件
	⑩	表記について	2 件
	⑪	合理的配慮の説明について	1 件
主に、 第 7 章に関する意見	⑫	相談事業の評価について	1 件
主に、 第 9 章に関する意見	⑬	事業について	4 件
その他の意見	⑭	感想等	17 件
計			37 件

1. 計画全般への意見

①表紙について

No	意見の概要
1	<u>冊子の表紙に副題</u> があるとなじみやすいのではないかという意見。

⇒【事務局回答】

- ・ ご意見ありがとうございました。
- ・ 基本理念「ともに 誰もがつながり合い、自分らしく、安心して暮らすことができるまち をつくる」を表紙の副題に追加し、より馴染みやすい計画にいたします。

2. 主に、第3章に関する意見

②アンケートについて

No	意見の概要
2	<u>高齢者や要介護者、障害のある方を一括して「支援が必要な人」と位置づけると固定的な捉え方につながる</u> ため、地域共生社会の理念に沿って、これらの方々も多様な形で支え合いに参加できる存在として示すべきという意見。
3	「孤立」の説明が実際には「閉じこもり」の状態を指しているように読めるため、電話やメールで交流がある人や、趣味のときだけ外出する人まで一律に孤立とみなすのは適切ではないと感じられる。 <u>閉じこもりは健康面や社会参加の観点から重要な課題であり、孤立につながる可能性もあるため、両者の違いを踏まえたくうえで、より実態に沿った整理や表現が望まれる</u> という意見。

⇒【事務局回答】

- ・ ご意見ありがとうございました。
- ・ 地域共生社会の実現に向けては、誰もがそれぞれの立場で地域に関わり、支え合うことができるという視点が重要であると認識しております。
本計画においても、支援を必要とする方々を一方向的に「支えられる側」として固定的に捉えるものではなく、多様な主体が地域の担い手となることを重視しています。
- ・ 外出状況のアンケートは孤独・孤立の可能性を把握するための参考指標であり、外出頻度だけで個々の状態を判断するものではありません。閉じこもりが続くことは孤独・孤立の深刻化につながるため状況把握は重要と考えています。また、「相談したくない」と回答した割合や理由も相談行動の傾向を知るために掲載しています。本計画では、外出状況や生活スタイルにかかわらず、必要な支援やつながりが生まれやすい環境づくりを進めており、アンケート結果は地域の状況を把握するための一要素として示しています。

③地域福祉の方向性について

No	意見の概要
4	方向性3では「多様なつながり」が示されているものの、つながり方は一人ひとり異なり、画一的に押し付けるものではないことをより明確に示す表現が望まれる。 <u>つながりを育む取組は重要である一方で、個人の生き方やつながり方を規定したり、つながりを望まない人を排除したりしない姿勢を計画に反映してほしい</u> という意見。

⇒【事務局回答】

- ・ ご意見ありがとうございました。
- ・ 方向性3で示す「多様でゆるやかなつながり合い」は、一人ひとりが心地よいと感じる関わり方を尊重する考え方に基づいています。つながりには様々な形があり、個々に合った距離感やペースを大切にしながら、孤独・孤立の深刻化を防ぐために支援や相談につながるやすい環境づくりを進めています。今回のパブコメ意見を踏まえ、こうした考え方がより伝わるよう表現の見直しを行います。

3. 主に、第4章に関する意見

④地域差について

No	意見の概要
5	豊田市は面積が広いので、 <u>地域によって地域福祉への意識や取組に差が生じる可能性があることから、意識格差を縮めるための施策が必要</u> ではないかと考える。また、 <u>地域ごとに縦割りの計画をつくるのではなく、共通の目標を示したうえで、達成に向けた手段を各地域の実情に応じて工夫できるような進め方が望ましい</u> という意見。

⇒【事務局回答】

- ・ ご意見ありがとうございました。
- ・ 本市では、地域ごとに意識や参加状況に差が生じる可能性を認識しており、その状況に応じた取組が求められると考えています。本計画では、市全体の共通方向を示すために基本理念・基本目標を明確にするとともに、地域の実情に応じて取り組みを進められるよう、柔軟に対応できる進め方を示しています。また、理解促進や参加機会の拡充など、意識の差を縮めることにつながる施策を進めるとともに、関係部局が連携して縦割りを防ぎ、地域の声を踏まえながら一体的に地域福祉を推進していきます。

⑤基本目標について

No	意見の概要
6	基本目標2の文章について、「高齢者や障がいのある人」から始めると特定の人を生きがいの存在として捉える印象につながりかねないため、 <u>「誰もが」を冒頭に置く表現に改めるべき</u> だと考える。地域福祉はすべての住民を対象とすることからも、まずは <u>包括的な表現で示すことが望ましい</u> という意見。

⇒【事務局回答】

- ・ ご意見ありがとうございました。

- 基本目標 2 は、地域福祉がすべての住民を対象とし、誰もが生きがいや役割を持って地域に関われるという考え方を前提としています。そのうえで、高齢者や障がいのある人など、支援が必要な場合でも参加しやすい環境づくりを意図して記載しています。今回いただいた「冒頭を『誰もが』とすることで理念がより明確になる」という視点は有意義であり、表現の見直しを行います。

⑥計画の評価について

No	意見の概要
7	評価指標の「取組の評価」と「アウトカム評価」の表現が分かりづらいので、整理が必要ではないかを感じる。例えば、①各取組のアウトプット評価、②各施策のアウトカム評価、③計画全体の総合評価といった構成のほうが理解しやすいのではないかという意見。

⇒【事務局回答】

- ご意見ありがとうございました。
- 取組の評価は、各事業のアウトプット指標をもとに進捗や実施状況を把握するための基礎的な評価として位置づけています。**単なる数値確認ではなく、計画の実行力や方向性を確認する目的で活用しています。**評価体系は地域福祉専門分科会での議論を経て設定しており、計画の進捗管理において重要な役割**を担っています。いただいたご意見は、評価の考え方をより分かりやすく伝える際の参考といたします。

4. 主に、第5章に関する意見

⑦市民の役割について

No	意見の概要
8	市民が実際に行動するためには、行政など主体側からの働きかけが不可欠だが、その記述が少ないため、 市民が計画を読んでも具体的に何をすればよいのか分かりにくい と感じるという意見。

⇒【事務局回答】

- ご意見ありがとうございました。
- 市民が地域福祉に関わるためには、具体的な行動をイメージできる情報提供が重要であると認識しています。本計画の第5章では、**住民懇談会や若者との意見交換を踏まえ、「関心を持つ・知る」「つなげる」「参加する」「主体的に動く」という共通視点を整理し、市民が自分に合った関わり方を選べるよう配慮**しています。いただいたご意見は、今後の情報提供の工夫に活かしてまいります。

5. 主に、第6章に関する意見

⑧担い手づくりについて

No	意見の概要
9	地域の福祉の担い手づくりについて、福祉に無関心な人が多く、特に若い世代では地域で活動したいという人に出会う機会が少ないと感じているため、 <u>地域で活躍できる人材を集め、育てていく取組を進めてほしい</u> という意見。

⇒【事務局回答】

- ・ ご意見ありがとうございました。
- ・ 若い世代を含め、福祉に関心を持つ人や地域で活躍する担い手が不足している点は、本市としても重要な課題と認識しています。**本計画の第6章では、福祉教育やボランティア体験、若者の社会参加支援、人材をつなぐ仕組みづくりなど、幅広い世代が地域で活躍できる環境づくりを進める取組を示しています。**今後も、若い世代が参加しやすい機会づくりや人材育成に取り組み、地域福祉の担い手の裾野を広げてまいります。

⑩評価指標について

No	意見の概要
10	<u>評価指標のうち、ボランティアセンターの新規人数が登録者数なのか不明</u> であり、実際に活動した人数のほうが説得力があるのではないかと感じる。また、 <u>高齢者についてはニース調査のデータが活用できると思われ、他の世代についても把握できる指標があれば併せて示したほうが納得感が高まる</u> のではないかとこの意見。
11	孤立しやすい人はアンケートに回答しない場合も想定されるため、数値だけでは把握が難しいと感じる。 <u>社協や相談機関によるアウトリーチ活動など、孤立リスクの高い人への働きかけが行われているかを示すエピソード的な評価指標も取り入れるべきではないか</u> という意見。
12	指標がマイノリティや社会的弱者への理解に偏っている印象があり、「認め合う」という観点をより広く捉えるためには、 <u>地域への信頼感や助け合いの規範（互酬性）に関する認識などのデータも指標として加えるべき</u> ではないかという意見。

⇒【事務局回答】

- ・ ご意見ありがとうございました。
- ・ ボランティアセンターの評価指標については、当年度の新規登録者数（団体・個人）を用いています。また、地域福祉計画アンケートを3年に1度実施し、今後ボランティアや市民活動に参加したいと考える市民の割合を把握していきます。さらに、社会情勢の変化も踏まえ、数値だけでなくエピソードなど多面的な情報もあわせて評価していく方針です。
- ・ 本市では、声を上げにくい方へのアウトリーチが重要であると認識しており、重層的支援体制の下で日々の相談・支援記録から支援のプロセスや事例も把握しています。また、孤独・孤立対策では当事者の意向を尊重し、信頼関係を築きながら支援の質を丁寧に検証することが必要と考えています。今後も関係機関と連携し、適切なアプローチが行えているか振り返りと改善に努めてまいります。

- 現在の指標は、障がいのある人や外国人、高齢者など支援が必要となる層への理解を中心にしており、「認め合う」という理念を地域全体の関係性として捉えるには視点が限定的に見える場合があることは認識しています。地域への信頼感や助け合いの規範（互酬性）といった意識を示すデータは有効な視点ですが、現時点では継続的に取得できる定量データがないため指標化が難しい状況です。そのため、本計画ではエピソード等の質的評価を補完的に活用しています。いただいたご意見は、今後の調査や評価方法を検討する際の参考といたします。

⑫表記について

No	意見の概要
13	高齢者施設では民間の人材会社による高額な仲介料や不適切なマッチングが問題になっており、福祉業界では人材不足から利用せざるを得ない状況があると聞く。そのため、 <u>プラットフォーム内に「民間の人材会社」と明記することが適切か検討し、「企業」などより広い表現に改めることも考えるべきではないか</u> という意見。
14	<u>取組5は「社会参加」よりも「地域活動への参加」と表現したほうが内容に合っている</u> と感じる。若者は学校などを通じて社会には参加しているが、ここでの論点は地域活動への関わり方であるように読めるため、より適切な表現を検討すべきではないかという意見。

⇒【事務局回答】

- ご意見ありがとうございます。
- ご指摘のとおり、担い手プラットフォームでは、様々な企業に参画をしていただく予定をしています。あえて差別化をする必要がないため、ご意見をいただいた通り、人材会社ではなく企業と記載させていただきます。
- 若者の地域活動のきっかけとなる社会参加の促進という意図が伝わる表記に変更します。

⑬合理的配慮の説明について

No	意見の概要
15	本文中の「配慮」は主に合理的配慮を指していると理解したが、日本語の一般的に使われる「配慮」とはニュアンスが異なる。 <u>合理的配慮は一方的な気遣いではなく双方向の調整であることを示すため、コラムなどで概念を説明</u> してはどうかという意見。

⇒【事務局回答】

- ご意見ありがとうございます。
- 本計画で用いる「配慮」は、一方的な気遣いではなく、本人の意向を尊重しつつ周囲と双方向で環境や方法を調整するという合理的配慮の考え方を含むものとして位置づけています。ただし、一般の方にも分かりやすい表現とするため、計画内では「配慮」という語を用いており、合理的配慮の概念を直接説明していない部分があります。いただいたご意見を踏まえ、合理的配慮の趣旨や「配慮」との違いについて理解を深められるよう、用語集等に合理的配慮の説明を追加することを含め、説明や周知の工夫を検討してまいります。

6. 主に、第7章に関する意見

⑮相談事業の評価について

No	意見の概要
16	相談事業の評価において相談受付件数を目標値とすることは適切か検討が必要だと感じる。地域づくりやネットワークづくりが進めば予防が機能し、 相談件数が増えない場合もあり得るため、件数は参考指標にとどめ、地域の支援ネットワーク構築に関する取組を目標として設定するほうが望ましい という意見。

⇒【事務局回答】

- ・ ご意見ありがとうございました。
- ・ **相談受付件数は、国のガイドラインで評価指標として示されているため原案どおり**とします。一方で、**本計画ではロジックモデルを用いてアウトカムを中心に評価し、市民共働による評価も取り入れています**。ご意見の趣旨を踏まえ、体制やネットワークの充実についてもこれらの方法を通じて確認していきます。

7. 主に、第9章に関する意見

⑯事業について

No	意見の概要
17	豊田市には保護司会、更生保護女性会、協力雇用主に加えて、BBS会（Big Brothers and Sisters Movement）や更生保護施設もあり、いずれも犯罪・非行歴のある人の社会復帰支援に取り組んでいる。 計画5①の「社会支援活動の担い手支援」の取組概要には、これらの団体も明記し、「等」に含めるのではなく名称を示すべきだ という意見。
18	一般競争入札に係る豊田市総合点で保護観察対象者の雇用を評価対象としている制度 は、新たな協力雇用主の確保や、犯罪歴のある人の雇用促進につながる仕組みだと考えるため、 5①「社会支援活動の担い手支援」の欄にこの制度も追記すべき ではないかという意見。
19	社会を明るくする運動は、豊田市や保護司会など関係団体が推進委員会を構成して実施しているため、5③の記載は「保護司会等と連携して啓発活動を引き続き実施していきます」と明記すべき ではないかという意見。
20	覚醒剤に加え、若い世代の大麻事犯が増加しており、薬物事犯は再犯につながりやすいことから、 規制薬物への対応について豊田市としての取組を検討し、再犯防止推進計画に位置づけるべきだ という意見。

⇒【事務局回答】

- ・ ご意見ありがとうございました。
- ・ 協力雇用主会、保護司会及び更生保護女性会のほか、**BBS会や更生保護施設と市の関りが分かる表記に変更**します。
- ・ 本計画の「社会支援活動の担い手支援」では、協力雇用主を含む更生保護団体への負担軽減や連携強化を位置づけており、制度の趣旨は既に本取組の中に含まれています。一方で、**制度内**

容としては記載していないため、いただいたご意見を踏まえ、当該欄への追記をいたします。

- ・「社会を明るくする運動」は、豊田市や保護司会など関係団体が推進委員会として連携し実施している重要な取組であると認識しています。ご意見を踏まえ、**重点取組③の啓発活動の記載については、保護司会等との連携がより明確に伝わるよう、計画の趣旨に沿って文言を整理します。**
- ・本市では、若年層を含む薬物事犯の増加や再犯の状況を踏まえ、**薬物依存を含む複合的な課題には多機関連携が必要と認識**しています。本計画では、**薬物に関する課題も含めて総合的な再犯防止に取り組む方針**としており、情報共有や専門的アセスメント、権利擁護施策との連携、啓発や研修などを進めています。また、ご意見を踏まえ、生活困窮・障がい・薬物依存など**福祉的支援を必要とする方を対象としていることがより明確に伝わるよう、記載を整理**します。

8. その他意見

⑰感想等

No	意見
21	豊田市に来てみて、安心して暮らせそうだと感じています。
22	これから高齢になることに不安もありますが、枠を超えて取り組んでくれているのは心強いです。
23	行政や企業、福祉団体が中心となって、地域のつながりが広がっていくと良いと感じています。
24	豊田市は地域ごとの特色が大きいのので、その多様性を活かした独自の地域福祉計画ができると思います。
25	福祉の担い手づくりを重点施策にしている点が良いと思います。福祉の仕事がもっと魅力的になる社会を期待しています。
26	地域福祉に関わるうえで、まず「関心を持つ・知る・情報を得る」をどう広げるかが大事だと思います。
27	助け合えるまちづくりはとても大切だと感じています。
28	地域福祉は何が正解か分からず難しいですが、地道にできることを続けていくことが大切だと思います。
29	福祉の活動を知らない人がまだ多いので、もっとPRを強めて参加を広げ、明るい豊田市にしたいです。
30	地域では知り合いが多く声をかけづらい場面もあるので、専門の人が間に入って関係づくりを進めてほしいです。
31	配慮が必要な人の社会参加や就労支援を進めてほしいです。
32	高齢者が孤独や孤立を感じない地域になってほしいです。長生きがたらくならない環境が望ましいです。
33	地域で支え合いたい気持ちはあるものの、どこから関わればいいのか分からず、個人情報扱いが壁になっていると感じます。
34	孤独・孤立をみんなで支え合う地域を目指すと良いと思います。
35	製造業が強い地域なので福祉の人材が集まりにくく、介護職の負担や賃金の低さも課題だと感じます。複雑な課題を抱える人も多く、相談先が分かりにくいので、重層的支援をもっと理解して活用できるようになりたいです。

36	孤立を防ぐには、近い関係だからこそその関わり方の工夫が必要で、コーディネーターのような役割が欠かせないと思います。社会が縮小していく中で、どうやって多様でゆるやかな「つながり合い」を創出していくのが課題です。
37	高齢化で地域活動が難しくなる中、無理なく続けられる仕組みが必要だと感じます。交通や買い物、外国人住民とのコミュニケーション、ひとり暮らしの不安など、豊田市ならではの課題に向き合いながら、誰もが最後まで住み続けられる地域になってほしいです。